

★☆☆☆★☆☆☆★☆☆☆★3月のありがとう★☆☆☆★☆☆☆★☆☆☆★

2月14日にチョコを頂きました。ありがとうございます。手作りのものもあったり、あるいはちょっとお値打ちのものもあったり、バラエティーに富んでいました。これからは襟を正して、勉強を教えていこうと思いました。

### 誤解されている「国語」(1)

こんにちは。今学年最後の月であると同時に、新学年をまもなくという月となりました。中学3年生、小学6年生については、今いる場で学ぶ最後の月です。どんな気持ちでしょうか。ちょっと感傷的な気分になってしまいそうですが、次の踏み台としての3月と考えていただき、4月の大きな飛躍ができるように、3月に十分に力を蓄えておいてもらいたいと思います。

さて、今回はちょっとまじめに国語という教科について考えてみました。国語を教えていて思うことをいくつか挙げていきたいと思います。

#### 1. 「国語は日本語だからわかる」…本当ですか？

国語の勉強をしない子供の言い訳としてよく使われるものが「国語＝日本語」という考え方です。この考え方には2つの理解不足があります。

1つ目は、国語で勉強していることは日本語で書かれた文章であって、日本語そのものについてはあまり触れられていないということです。

2つ目は、日本語が本当に分かっているのかということです。

私たちの多くは日常生活で日本語を使っています。それは単に偶然のことなのです。日本語だから分かって当たり前ではないのです。偶然、日本語を身に付け、日本語が使える環境に置かれているだけなのです。その偶然の環境の中で、日本語で書かれた文章を用いて国語の勉強で行われているのです。

「国語は日本語だから大丈夫」といっても、意外と日本語そのものについてはあまり理解されていません。例えば、国語の文法は日本語そのものについての勉強になりますが、多くの児童・生徒は文法の学習は苦手です。また、一つ一つの違いを意識しながらことばを選んで使っていますか、またそれを説明できますか。やや重箱の隅をつついていような話にはなるのですが、無意識に使っている日本語であるがために、分からないことがたくさんあるのも日本語の難しさなのです。

国語を学んでいくには、日本語に対して意識的になることが必要です。無意識に使って不便がないから大丈夫ということではないのです。著作を読むときの話で考えてみると、著者はその作品を意識的に書いているのですから、読み手が無意識に分かるということはないのです。筆者はどんな考えに基づいて、何を感じてその作品を書いているのかを読み手が姿勢を正して向き合わないといけません。

ですから、「国語は日本語だから大丈夫」というのは果たして本当のことなのでしょうか。もう一度見直してみないといけません。

#### 2. 「問題が難しい」…のでしょうか？

以前、ブログにも掲載した内容(2011年12月17日「学習にはステージがあります」)になるのですが、国語の文章の読み取り問題に取り組んでいるときに、「問題が難しい」という声が聞かれます。では、国語の文章の読み取り問題の難易を決めるもの、品質の良し悪しを決めるものとは何でしょうか。

読み取り問題は読み取らせる文章とその文章についての設問から成り立っています。文章の読み取り問題が解けている場合、文章と設問ではどちらの方が簡単なのでしょうか。これは私の直感に



### ⑥3月26日(月)～4月3日(火)は「春の教室」です。

別紙にてご案内を致しますが、今学年の復習と新学年の予習を行う「春の教室」を開催いたします。小春学院の通塾生は必修受講となります。ご案内をご覧の上、お申し込みをお願いいたします。

### ★★今月の「この一問！」★★

今月は理科に関する時事問題です。チャレンジしてみてください。答えは教室で！

次の(1)、(2)の文章中の[①]、[②]に入る言葉の組み合わせとしてもっとも適切なものを、あとのア～ケから1つずつ選び、記号で答えなさい。

(1) 2010年5月、H2A ロケット17号機の打ち上げに成功しました。H2A ロケット17号機には、太陽光を帆に受けて定められたコースを行く世界初の宇宙ヨット[①]や金星探査機[②]などが載せられました。

	①	②		①	②		①	②
ア	ケレス	あかつき	イ	ケレス	のぞみ	ウ	ケレス	ひまわり
エ	タイタン	あかつき	オ	タイタン	のぞみ	カ	タイタン	ひまわり
キ	イカロス	あかつき	ク	イカロス	のぞみ	ケ	イカロス	ひまわり

(2) 2010年6月、宇宙航空研究開発機構は小惑星探査機[①]が様々なトラブルを乗り越えて約60億kmを旅し、小惑星[②]から地球に帰還したと発表しました。小惑星探査機[①]は、ほとんどの部分が大気との摩擦で消滅しましたが、試料カプセルはオーストラリアの砂漠に落下しました。月より遠い星の表面から試料を持ち帰ることに成功したのは世界で初めてです。

	①	②		①	②		①	②
ア	おおたか	イトカワ	イ	はやぶさ	イトカワ	ウ	つばめ	イトカワ
エ	おおたか	イケヤ	オ	はやぶさ	イケヤ	カ	つばめ	イケヤ
キ	おおたか	アイダ	ク	はやぶさ	アイダ	ケ	つばめ	アイダ

(とある私立中学入試からの出題です)

### ★★大人のための「この一冊！」★★

#### 小泉純一郎「音楽遍歴」(日経プレミアシリーズ)

このコーナー、今回はかなり悩みました。手元に紹介するに適した本が見つからない。まさかのお休みか、と焦りながら書棚を物色していると奥の方に見覚えるがある本が1冊ありました。

数年前、書店を歩いていて偶然出会ったのが今回ご紹介する小泉純一郎氏の「音楽遍歴」という読み物です。

小泉純一郎氏と言えば、数年前に政権を長期にわたり維持した首相です。そんな彼が音楽通であることは広く知れ渡っている話です。そんな彼が音楽との関わり、音楽を通じての人物交流、音楽への想いを語ってくれています。本書は小泉氏の語りを文字に起こしたものですので、読みやすさは十分にあります。テレビで小泉氏の語りを見聞きしたことがある方には、本書を読みながら彼の口ぶりを思い浮かべるかもしれません。

正直、本書は一言で言えば「音楽はいい」という内容に終始しています。なんだそんな話かと思

われますが、「音楽がいい」という裏づけになるのは小泉氏のこれまでの音楽遍歴とでも言うような膨大な音楽鑑賞経験でしょう。評論家のように理論立てて説明するのではなく、直感にうったえる評論なので、音楽をあまり聴かないという方も本書を読むとちょっと興味が引かれるのではないのでしょうか。

さて、わたしが本書の中で興味を持った箇所を引用してみたいと思います。

「音楽が幼年期や少年期の人格形成に与える影響は大きい。みんな気がついていないけど、もし運動会に音楽がなかったら、どうか。行進曲ひとつ挙げても、音楽というものは子どもたちを勇気づけ、元気づける。行進するのに音楽がなかったら、歩いていてもサマにならないはずだ。」

「音楽家を目指す人でなく一般の人には、音楽を好きになる機会がたくさんあったほうがいい。まず音を楽しむためには、どういう曲を聴いてもらえばいいのかを、小学校、中学校の先生は考えたらどうか。」

最近感じることですが、文字主体の勉強にどうも偏っていて、感覚を研ぎ澄ますような勉強の機会が少なくなっているように思います。もちろん、文字を用いて勉強することは必要ですが、それだけに偏るのではなく、人間が備えている五感をもっと使っていく勉強も必要ではないのでしょうか。国語の勉強であれば、心に響く詩を音読してみたり、書写してみたり、知識に基づいた鑑賞だけでなく、感覚に根ざした鑑賞をすることで、言葉のセンスがもっと磨かれていくように思います。歌の歌詞なんかをノートに書いてみたりするのも面白い試みかもしれません。童謡には子どもの想像力を膨らませるうまい表現がたくさんあります。身近なところにも言葉のセンスを鍛える題材はたくさんあります。

話は音楽から国語へとそれてしまいましたが、小難しい音楽の解説書とはちょっと違った読み物として、本書から不思議な説得力を感じることができるはずです。

---

#### 【編集後記】

来年度に向けての準備が着々と進んでいます。アクティブな試みも考えています。皆さんの声を参考にしながら、もっといきいきした塾づくりに専念していきます。

いきいきした塾づくりには皆様のお声が必要です。「あんなこといいな、できたらいいな」といった具合に、皆様のお声を聞かせてください。応援メッセージも同時受付中。宜しくお願いします。

ペンネーム

この応援メッセージをブログに掲載してもよろしいでしょうか？ はい いいえ  
ご協力ありがとうございました。